

米国農務省穀物等需給報告(2024 年 10 月 11 日発表のポイント)

令和 6 年 10 月 15 日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、10 月 11 日(現地時間)、2024/25 年度の6回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2024/25 年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み) (※ ↑ ↓ → は前月見通しからの増減)

- ① 生産量: 28 億 2,463 万トン(対前年度比 0.4%増) ↓
- ② 消費量: 28 億 4,144 万トン(対前年度比 1.0%増) ↑
- ③ 期末在庫量: 7 億 7,226 万トン(対前年度比 2.1%減) ↑
期末在庫率: 27.2%(対前年度差 0.9 ポイント減) ↑

【主な品目別の動向】

小麦: 主に EU、ロシア、インド、ブラジルで前月より生産量が引き下げられたこと等を受け、前月より下方修正されたものの、世界全体の生産量は前年度より増加する見通し。インドとアフガニスタンで食料・種子・工業用の消費量が引き下げられたことを受け、前月より下方修正されたものの、世界の消費量は前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回るため、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量: 7 億 9,408 万トン(対前年度比 0.5%増) ↓ ・・豪州、米国、カザフスタン、中国、インド、アルゼンチン、カナダ等で増加、EU、ロシア、英国等で減少
- 2 消費量: 8 億 254 万トン(対前年度比 0.6%増) ↓ ・・中国、EU 等で減少
- 3 期末在庫量: 2 億 5,772 万トン(対前年度比 3.2%減) ↑ ・・米国等で増加、ロシア、EU 等で減少
期末在庫率: 32.1%(対前年度差 1.3 ポイント減) ↑

とうもろこし: 米国では単収の増加により生産量が前月より引き上げられたものの、ウクライナ、エジプト、ロシア、フィリピンで引き下げられたこと等を受け、前月より下方修正されるとともに、世界全体の生産量も前年度より減少する見通し。世界の消費量は前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回るため、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量: 12 億 1,719 万トン(対前年度比 0.7%減) ↓ ・・ブラジル、南アフリカ、中国等で増加、ウクライナ、ロシア、米国、EU 等で減少
- 2 消費量: 12 億 2,332 万トン(対前年度比 0.5%増) ↑ ・・中国等で増加
- 3 期末在庫量: 3 億 652 万トン(対前年度比 2.0%減) ↓ ・・米国等で増加、ブラジル、中国等で減少
期末在庫率: 25.1%(対前年度差 0.6 ポイント減) ↓

コメ(精米): インドではモンスーンの降水量が前年を上回ったことや、綿花の作付けを減らしコメの作付けを増加させたことから前月より生産量が引き上げられ史上最高を記録する見込み。これにより世界全体の生産量も前年度より増加する見通し。世界の消費量も前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回るため、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 5 億 3,044 万トン(対前年度比 1.7%増) ↑ ・・インド等で増加(前月に比べ、インド等で上方修正)
- 2 消費量: 5 億 2,807 万トン(対前年度比 1.3%増) ↑ ・・インド等で増加、中国等で減少
- 3 期末在庫量: 1 億 8,219 万トン(対前年度比 1.3%増) ↑
期末在庫率: 34.5%(対前年度差 0.005 ポイント増) ↑

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

米国では単収の減少、ウクライナでは収穫実績に基づき生産量が前月より引き下げられたことを受け、前月より下方修正されたものの、世界全体の生産量は前年度より増加する見通し。世界の消費量も前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回るため、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 4 億 2,892 万トン(対前年度比 8.7%増) ↓ ・・ブラジル、米国、アルゼンチン等で増加
- 2 消費量: 4 億 272 万トン(対前年度比 4.9%増) ↓ ・・中国、アルゼンチン、米国等で増加
- 3 期末在庫量: 1 億 3,465 万トン(対前年度比 19.8%増) ↑ ・・ブラジル、米国、アルゼンチン、中国等で増加
期末在庫率: 33.4%(対前年度差 4.2 ポイント増) ↑

世界の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2024年10月11日発表)

【穀物】

(単位：百万トン)

項目	年度	2022/23	2023/24 (見込み)	(予想)	2024/25		(参 考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		2,758.02	2,813.18	2,824.63	0.4%	▲ 2.0	2,299.4
消費量		2,768.08	2,812.89	2,841.44	1.0%	1.1	2,287.2
期末在庫量		788.78	789.07	772.26	▲ 2.1%	3.9	481.0
期末在庫率		28.5%	28.1%	27.2%	▲ 0.9	0.1	21.0%
小麦							
生産量		789.49	790.38	794.08	0.5%	▲ 2.8	660.8
消費量		789.44	797.81	802.54	0.6%	▲ 2.4	680.3
期末在庫量		273.61	266.18	257.72	▲ 3.2%	0.5	180.6
期末在庫率		34.7%	33.4%	32.1%	▲ 1.3	0.16	26.5%
粗粒穀物							
生産量		1,452.51	1,501.28	1,500.11	▲ 0.1%	▲ 2.3	1,162.6
消費量		1,458.65	1,493.81	1,510.83	1.1%	2.8	1,142.0
期末在庫量		335.60	343.07	332.35	▲ 3.1%	▲ 1.6	176.5
期末在庫率		23.0%	23.0%	22.0%	▲ 1.0	▲ 0.1	15.5%
とうもろこし							
生産量		1,160.67	1,225.92	1,217.19	▲ 0.7%	▲ 1.4	903.3
消費量		1,170.50	1,217.35	1,223.32	0.5%	3.5	880.6
期末在庫量		304.09	312.65	306.52	▲ 2.0%	▲ 1.8	146.0
期末在庫率		26.0%	25.7%	25.1%	▲ 0.6	▲ 0.2	16.6%
コメ(精米)							
生産量		516.02	521.52	530.44	1.7%	3.1	476.0
消費量		519.99	521.27	528.07	1.3%	0.6	464.9
期末在庫量		179.58	179.82	182.19	1.3%	5.0	123.9
期末在庫率		34.5%	34.5%	34.5%	0.005	0.9	26.6%

【大豆】

項目	年度	2022/23	2023/24 (見込み)	(予想)	2024/25		(参 考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		378.70	394.71	428.92	8.7%	▲ 0.3	269.0
消費量		366.40	383.80	402.72	4.9%	▲ 0.3	265.4
期末在庫量		100.92	112.37	134.65	19.8%	0.1	58.3
期末在庫率		27.5%	29.3%	33.4%	4.2	0.04	22.0%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(October 11, 2024)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2024年10月11日発表)

【穀物】

(単位：百万トン)

項目 \ 年度	2022/23	2023/24 (見込み)	(予想)	2024/25		(参 考)
				前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	2012/13
全体						
生産量	406.43	458.91	459.04	0.03%	0.2	353.0
消費量	349.89	365.58	366.48	0.2%	0.3	317.1
輸出量	67.85	86.80	90.45	4.2%	0.6	51.6
期末在庫量	53.60	67.95	77.11	13.5%	▲ 1.8	44.2
期末在庫率	12.8%	15.0%	16.9%	1.9	▲ 0.4	12.0%
小麦						
生産量	44.90	49.10	53.65	9.3%	▲ 0.3	61.3
消費量	30.33	30.16	31.19	3.4%	0.3	37.8
輸出量	20.73	19.24	22.45	16.7%	－	27.5
期末在庫量	15.50	18.95	22.09	16.6%	▲ 0.4	19.5
期末在庫率	30.4%	38.4%	41.2%	2.8	▲ 1.0	29.9%
粗粒穀物						
生産量	356.45	402.88	398.41	▲ 1.1%	0.5	285.3
消費量	314.97	330.48	330.24	▲ 0.1%	▲ 0.02	275.5
輸出量	45.06	64.45	64.79	0.5%	0.6	20.7
期末在庫量	37.14	47.74	53.57	12.2%	▲ 1.4	23.5
期末在庫率	10.3%	12.1%	13.6%	1.5	▲ 0.4	7.9%
とうもろこし						
生産量	346.74	389.67	386.18	▲ 0.9%	0.5	273.2
消費量	305.93	322.00	321.71	▲ 0.1%	－	263.0
輸出量	42.22	58.23	59.06	1.4%	0.6	18.5
期末在庫量	34.55	44.72	50.77	13.5%	▲ 1.5	20.9
期末在庫率	9.9%	11.8%	13.3%	1.6	▲ 0.4	7.4%
コメ(精米)						
生産量	5.08	6.93	6.98	0.7%	－	6.3
消費量	4.60	4.94	5.05	2.2%	－	3.8
輸出量	2.05	3.12	3.21	2.9%	－	3.4
期末在庫量	0.96	1.25	1.45	16.0%	－	1.2
期末在庫率	14.4%	15.5%	17.6%	2.0	－	16.1%

【大豆】

項目 \ 年度	2022/23	2023/24 (見込み)	(予想)	2024/25		(参 考)
				前年度比	前月差	2012/13
生産量	116.22	113.27	124.70	10.1%	▲ 0.1	82.8
消費量	63.29	65.59	69.10	5.4%	▲ 0.1	48.6
輸出量	53.87	46.13	50.35	9.1%	－	36.1
期末在庫量	7.19	9.31	14.97	60.8%	－	3.8
期末在庫率	6.1%	8.3%	12.5%	4.2	－	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(October 11, 2024)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／(消費量＋輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考 1)

世界の穀物等の価格動向 (2024 年)

● 小 麦 : 5.90 ドル/bu (前年同時期の価格 : 5.68 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における 2024 年 10 月第 1 週末のセツルメント価格】

(史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022 年 3 月 7 日))

【1 月～6 月】

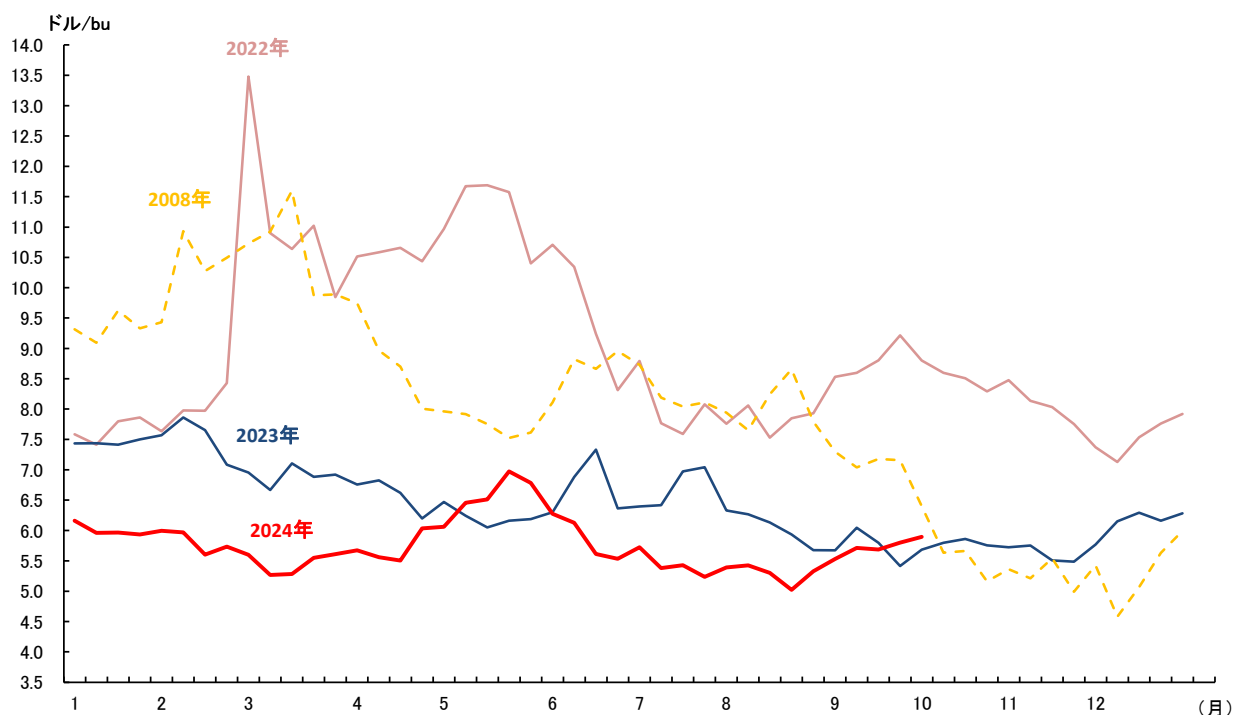
2 月半ばにかけ、米国産の低調な輸出需要等から 6 ドル/bu 台前後で推移。2 月半ば以降、米国アウトルックフォーラムで 2024/25 年度の米国産期末在庫量が市場予想を上回ったことや米国産の低調な輸出需要等から下落し、5 ドル/bu 台半ばで推移。3 月上旬から 4 月中旬にかけ、ロシア及びウクライナからの潤沢な小麦供給と米国産の低調な輸出需要等から下落し、5 ドル/bu 台前半から半ばで推移。4 月下旬以降、ロシアの乾燥による減産懸念等を受け上昇し、5 月下旬には 7 ドル/bu まで値を上げた。その後、米国産冬小麦の良好な作柄と順調な収穫等を受け、6 月末現在、5 ドル/bu 台半ばまで値を下げた。

【7 月以降】

7 月に入り、輸出成約高が市場予想を上回ったこと等を受けて 5 ドル/bu 台後半近くまで値を上げたものの、米国農務省需給報告で豊作に伴い米国の期末在庫量が上方修正されたことや北半球における収穫進展等を受けて 5 ドル/bu 台前半まで値を下げた。その後、EU 等の減産懸念から一時的に値を上げたものの、米国産春小麦の良好な生産見通し等を受けて値を下げ、7 月末現在、5 ドル/bu 台前半で推移。

8 月に入り、EU の作柄懸念等を受けて 5 ドル/bu 台半ばまで値を上げたものの、安価なロシア及びウクライナ産小麦の供給等から 4 ドル/bu 台後半まで値を下げた。その後、米国産春小麦の作柄悪化や EU の減産懸念等から値を上げ、8 月末現在、5 ドル/bu 台前半で推移。

9 月に入り、EU、ロシア等の作柄懸念や黒海周辺の緊張の高まり等から値を上げ、9 月末現在、5 ドル/bu 台後半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

● とうもろこし：4.25 ドル/bu（前年同時期の価格：4.92 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2024年10月第1週末のセツルメント価格】

（史上最高値：8.31 ドル/bu(2012年8月21日)）

【1月～6月】

1月に入り、南米の降雨予想や米国の低調な週間輸出成約高から4ドル/bu台半ばまで下落し、2月下旬には、米国農務省需給報告等で米国産期末在庫量が市場予想を上回ったこと、南米の生産見通しの改善から4ドル/bu割れまで値を下げた。

3月下旬にかけ、米国産の堅調な輸出やアルゼンチンの降雨過多等による作柄懸念、米国の作付意向面積が市場の事前予想を下回ったことを受け、4ドル/bu台半ばまで値を上げたものの、4月上旬にかけ、米国中西部での生産に適した天候が今春の作付け拡大につながるとの見通しから4ドル/bu台前半まで値を下げた。

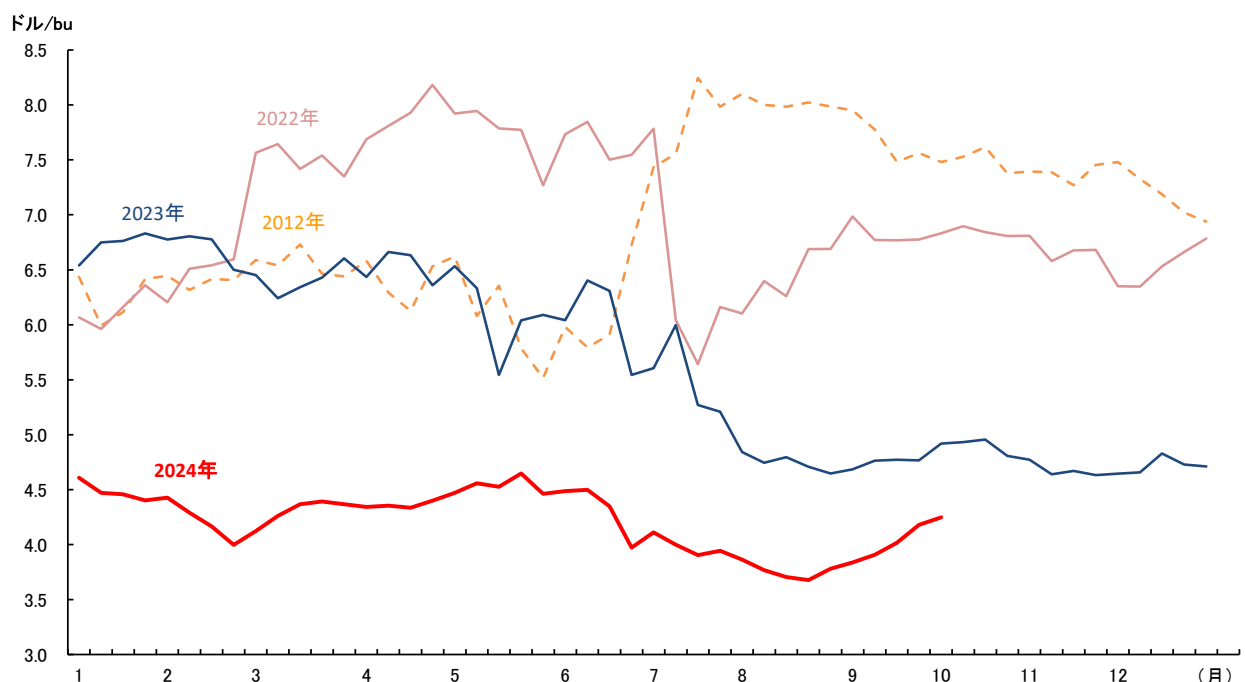
6月中旬にかけ、中東での緊張の高まりを受けた原油価格の上昇や米国中西部での作付け遅延及びブラジル南部での洪水被害等を受け、4ドル/bu台半ばまで上昇したものの、6月下旬には、米国中西部における降雨予報及び米国の作付面積予測が市場予想を大きく上回ったこと等を受け、6月末現在、3ドル/bu台後半まで値を下げた。

【7月以降】

7月に入り、米国中西部の高温予報を受けた作柄懸念等から4ドル/ブッシェル台前半まで値を上げたものの、米国中西部の降雨予報や良好な作柄を受けて値を下げ、7月末現在、3ドル/bu台後半で推移。

8月に入り、米国の豊作見通しや市場予想を上回る作付面積を受けて3ドル/bu台半ばまで値を下げた。その後、米国中西部での高温予報や米国の週間輸出成約高が市場予想を上回ったこと等から値を上げ、8月末現在、3ドル/bu台後半で推移。

9月に入り、米国中西部の乾燥による作柄懸念を受けて4ドル/bu近くまで上昇したものの、豊作見通しの大豆に連れ安等で3ドル/bu台後半まで下落した。その後、黒海周辺の緊張の高まりや米国農務省が発表した四半期在庫が市場予想を下回ったこと等を受け上昇し、9月末現在、4ドル/bu台前半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

● コメ：524 ドル/トン（前年同時期の価格：611 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における 2024 年 10 月第 1 水曜日の FOB 価格】

（史上最高値：1,038 ドル/トン(2008 年 5 月 21 日)）

【1 月～6 月】

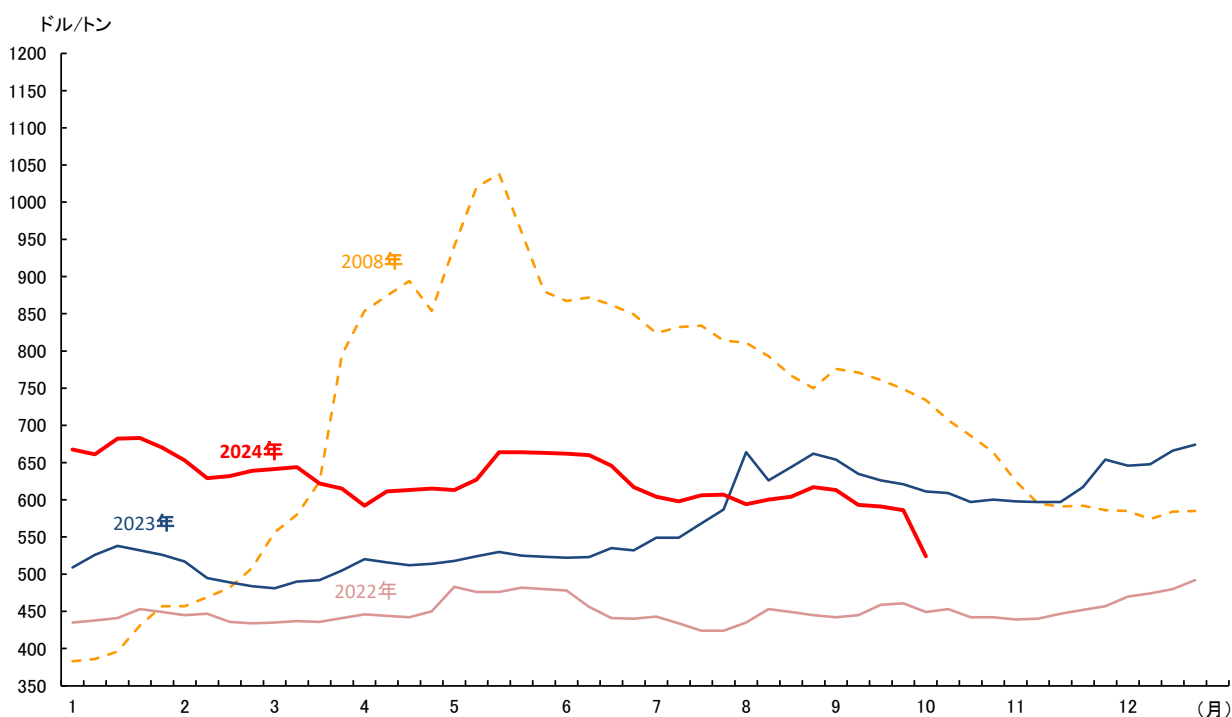
1 月に入り、インドネシアの追加買付けや旧正月、ラマダーンなどを控えた ASEAN 諸国からの需要増加等から 680 ドル/トン台前半まで値を上げたものの、2 月に入り、旧正月でアジアの市場が停滞したことや、新穀の入荷待ちによる需要の軟化等から、一時的に 620 ドル/トン台まで値を下げた。3 月に入り、インドネシア政府の買付け等により 640 ドル/トン台半ばまで値を上げたものの、3 月中旬以降、新穀の市場への流入継続等から下落し、4 月上旬には 590 ドル/トン台前半まで値を下げた。その後、インドネシア政府の買付け予測等から上昇し、5 月下旬には 660 ドル/トン台半ばまで値を上げたものの、6 月中旬以降、タイ産米の価格がベトナム産米に比べ価格優位性が低いこと等による需要の軟化や国内価格の下落等から 6 月下旬現在、610 ドル/トン台後半まで値を下げた。

【7 月以降】

7 月に入り、インドの輸出規制に下支えされながらも、新穀の出回りによるタイ国内価格の低下等から 590 ドル/トン台後半まで値を下げたものの、インドネシア向けの入札などを控え値を上げ、7 月末現在、610 ドル/トン付近で推移。

8 月に入り、引き続き新穀の出回りによりタイ国内価格は低下したものの、タイバーツ高等から 600 ドル/トン台前後で推移。その後、ASEAN 諸国やアフリカなどの需要増加等から値を上げ、8 月末現在、610 ドル/トン台半ばで推移。

9 月に入り、タイバーツ高となっているものの、インドネシアのタイ産米への需要減少及び安価な他のコメ輸出国との競争により値を下げ、9 月末現在、580 ドル/トン台半ばで推移。



● 大 豆：10.38 ドル/bu（前年同時期の価格：12.66 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における 2024 年 10 月第 1 週末のセツルメント価格】

（史上最高値：17.71 ドル/bu(2012 年 9 月 4 日)）

【1 月～6 月】

1 月に入り、米国農務省需給報告で米国産の生産量が上方修正されたことや、アルゼンチンの増産見通し、ブラジルの降雨等を受け 1 月末にかけ 12 ドル/bu 台前半まで値を下げた。2 月末にかけ、米国アウトルックフォーラムで米国産の生産量、期末在庫量が市場予想を上回ったことや、南米産の収穫進展及び生産見通しの改善から 11 ドル/bu 台前半まで値を下げた。

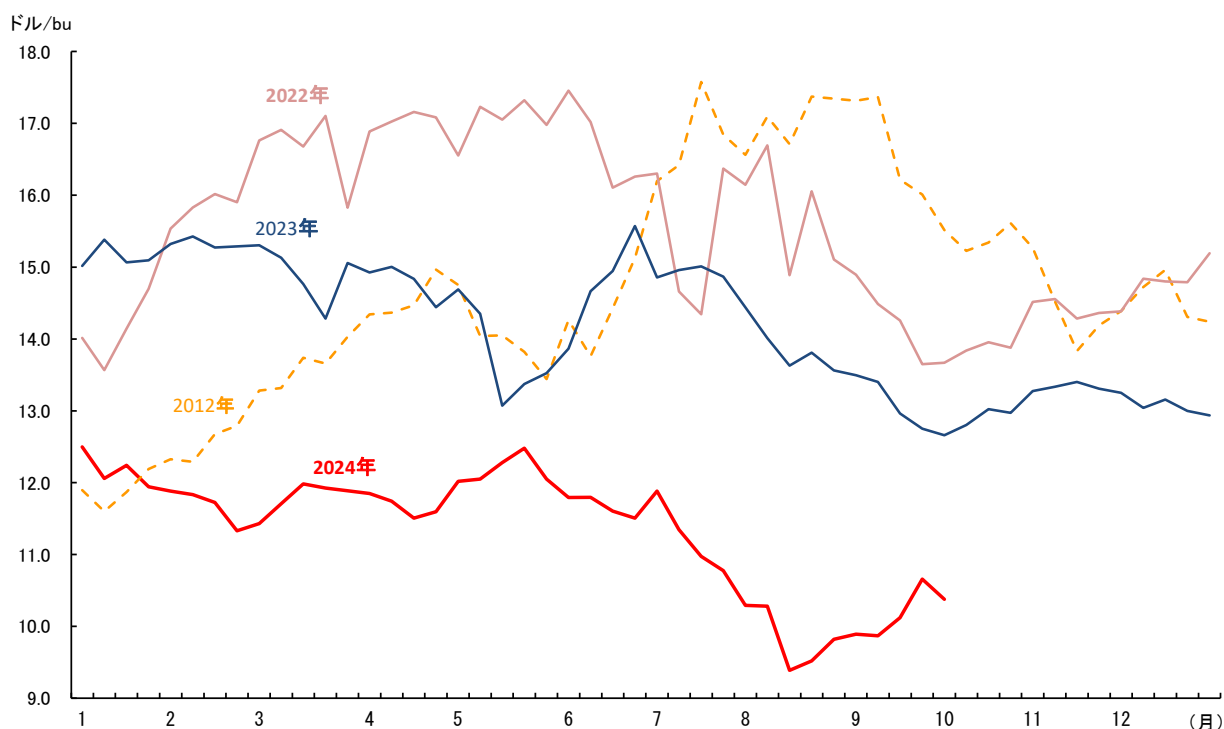
3 月下旬にかけ、米国産の堅調な輸出需要やブラジルの高温・乾燥による作柄懸念から 12 ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、4 月中旬にかけ、南米産の供給増を受けた米国の輸出需要の鈍化等から 11 ドル/bu 台前半まで値を下げた。5 月に入り、ブラジル南部での洪水被害等を受け 12 ドル/bu 台半ばまで上昇したものの、6 月下旬にかけ、米国産の順調な作付進捗及び米国の作付面積予測が市場予想を上回ったこと等を受け、6 月末現在、11 ドル/bu 台半ばまで値を下げた。

【7 月以降】

7 月に入り、米国中西部の高温予報を受けた作柄懸念等から 11 ドル/bu 台後半まで値を上げたものの、米国中西部の降雨予報や良好な作柄を受けて値を下げ、7 月末現在、10 ドル/bu 台前半で推移。

8 月に入り、米国農務省需給報告において世界の生産量と在庫量が市場予想を上回ったこと等を受けて 9 ドル/bu 台半ばまで値を下げた。その後、米国中西部での高温予報による作柄懸念や米国の週間輸出成約高が市場予想を上回ったこと等から値を上げ、8 月末現在、9 ドル/bu 台後半で推移。

9 月に入り、米国中西部の乾燥による作柄懸念及び米国産の新規の輸出成約報告等を受け、10 ドル/bu 台前半まで上昇したものの、米国産の豊作見通し等を受け 9 ドル/bu 台後半まで値を下げた。その後、米国農務省需給報告において米国の生産量と期末在庫量が市場予想を下回ったことやブラジルの乾燥による作付け遅延懸念等から値を上げ、9 月末現在、10 ドル/bu 台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.40
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
108.99	106.73	109.89	131.57	130.20	132.68	133.85	133.33	137.37	141.19	141.21
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
144.77	147.67	149.53	149.83	144.07	146.57	149.42	149.63	153.43	156.13	157.82
7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
158.06	146.23	143.38								

出典： 為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
45.01	38.28	65.79	60.71	45.62	42.50	48.46	52.10	46.37	43.25	42.73
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
49.49	52.48	51.30	52.75	56.27	51.39	50.39	54.74	53.56	54.31	53.28
7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
53.50	53.27	49.11								

出典： 米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

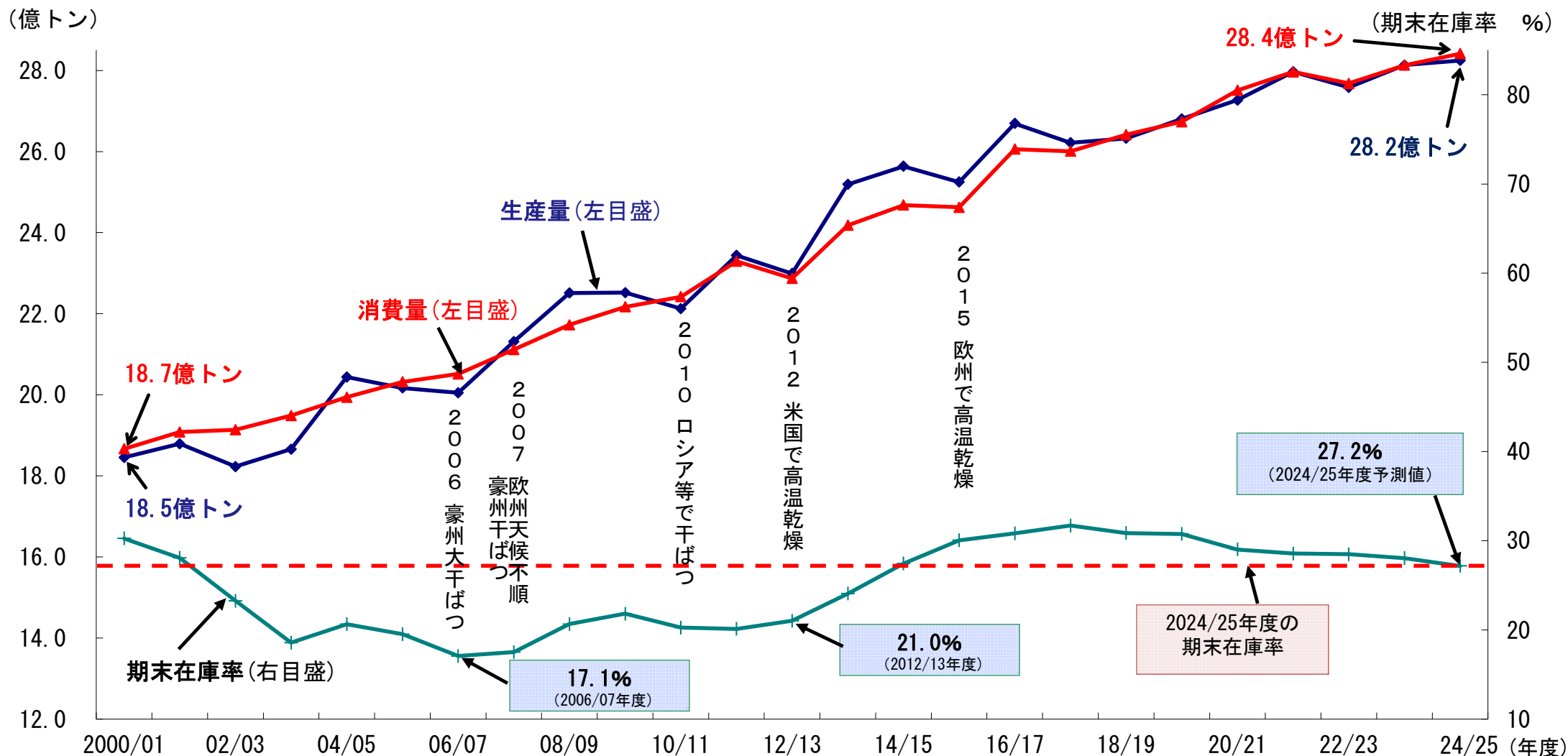
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	92.91	48.76	43.47	50.85	64.90
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
57.04	39.34	68.08	94.33	78.16	76.86	73.37	79.50	71.62	70.27	76.03
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
81.32	89.43	85.47	77.38	72.12	73.86	76.61	80.41	84.39	78.62	78.70
7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
80.48	75.43	70.24								

出典： 内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和6年9月, 116頁
但し、2024年9月 は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の日次データの平均値。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2024/25年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2024/25年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、27.2%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(October 2024)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。